

正東風に愁いあり

東美桜莉

春の方角に風が吹いている
うねるように静かに進み、
春の心地良い匂いを覗かせている。

黒に満ちた我が心は
地をはいずり回りながら
どこかで孤独に戦っているようだ。
それでも風は煌びやかに舞い、
より心を蝕んでゆく。
この美しき風景さえも
私の目に映るのは
暗く悲しい風景だけなのだ。

その外面の笑顔は
私に目を向けておらず、
そそくさと行く彼らの姿は
美しく過ぎ去る風に
とてもよく似ている。
葉の上にいる虫は
心地良さげに風を浴び
強風で吹きとばされていく。
苦痛と心地良さは紙一重なのだ
諦めた私は
そよ風の吹く青空の中で
体が塵となる。
風たちはそれを
遠目に見ているだけ